

入学の言葉

春の光の麗しさに心躍るこのよき日に、私たち新入生は上智大学の入学式を迎えることができました。本日は私たちのためにこのような式典を催していただき、誠にありがとうございます。曄道学長をはじめ、ご関係の皆様にも新入生を代表して、心より御礼申し上げます。

上智大学の歴史は、16世紀の大航海時代に始まります。多くの人々が世界へ目を向け、異なる背景を持つ人や文化との出会いを目指したこの時代は、現代社会を形づくるグローバル化の前史であると言えるでしょう。そうした時代に、キリスト教精神を根底とした高い志と知性を持って、上智大学の建学に尽力したイエズス会士を心にとめておくことは、この大学に集う者の使命であると思います。

今、社会は、グローバル化やデジタル化の進展による、大きな変革の時を迎えています。価値や倫理が多様化していく中、新たな時代を担う私たちは、物事の本質を見極める目を持つことが重要です。目に見えない形而上の概念でありながら世界が目指すべき本質を、多くの課題の中から見抜く知恵こそ、上智大学の校名の由来である「叡智」なのだと思います。これから始まる大学生活の中で、上智大学の標語である「真理の光」を求める姿勢を大切に、叡智を求め続けていきたいです。

私たちはこれから、日本有数の素晴らしい学習環境である上智大学で、各専門知識を学びます。現代社会に山積する、地球規模の課題の解決を試みる時、問題の真理にたどり着くための多面的なアプローチは不可欠です。大学の、ほぼ全ての機能が一つのキャンパスに集約された環境は、総合的な知の構築を可能にします。叡智の探求を信念として、複合的な知識を、自分のためだけでなく、他者のために役立て、真理の光に照らされた希望ある社会の実現のために働く人になりたいと考えます。そして、国際的な交流を通して多様な考えを尊重し、世界を多角的に俯瞰する視点を身につけ、知識に立脚した教養と高い専門性を備えられるよう努めて参ります。

また、私たちはこれから上智大学で同じ理念を共有する新たな仲間と出会います。新元号という新たな時代の始まりを共に歩み始める仲間との縁を大切に、各分野の特性を活かして対話を重ねることで、互いに高め合える関係を目指していきたいです。そして、多様な感性によって相対化される自分自身を深く見つめ、より良い世界の創造に奉仕する一員となれるよう、勉学に励んで参ります。

最後になりましたが、曄道学長をはじめ、諸先生方、そして本日まで私たちを支え、応援して下さった家族や保証人の方々に、上智大学で学ぶ機会を与えていただいたことに改めて感謝申し上げます。どんな苦難も乗り越えていく覚悟を持ち、確固たる信念のもとに大学生活を送ることを誓い、新入生代表の挨拶とさせていただきます。

2019年4月1日

2019年度 新入生代表 神学部神学科 牧田莉香子